

会員の
ひろば

倫理研究会 元代表 花田眞吉氏を偲ぶ

倫理委員会 委員一同

花田眞吉 相談役を偲んで

花田眞吉さんは、お亡くなりなられる前年令和3年の春頃に倫理委員会幹事に癌を患っていることを自ら告げられていました。しかし気丈に、第11回技術者倫理フォーラムや幹事会、WG活動等に参加して下さいました。コロナ禍ということもあり、委員会活動は制限されていましたが、令和3年10月15日の第1回幹事会、11月15日の第1回研究WGには元気な姿を見せておられました。令和4年1月12日に花田さん勤務先である中大実業(株)で開催の第2回幹事会には当初参加予定を当日は連絡なく欠席され、幹事一同も不思議に思っていました。

そんな中、令和4年1月14日に亡くなったとの訃報が唐突に入りました。我々は驚愕と共に無念であります。ここに日本技術士会北海道本部倫理委員会(研究WG)一同より、花田眞吉さんへのこれまでのご指導に感謝の内包と共に、謹んで哀悼の意を表するものであります。



第11回技術者倫理フォーラム 挨拶
(生前 花田眞吉氏 2021年6月30日)

花田さんは倫理委員会の前身である倫理研究会・準備会として活動した平成20年より、我々北海道

における技術者倫理の先駆者として研究活動をされ、翌年の倫理研究会発足時には研究会の初代代表としてご活躍されました。平成25年から現在の倫理委員会となってからも相談役として、我々の活動を支えて頂きました。

昨年の春頃に体調が優れないと聞いておりましたが、訃報を聞いた時は大きなショックであり大切な人を亡くしたと思っています。これからは花田さんの教えを心に我々も頑張つて行きます。安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

以下に、ドーコン時代に永らく一緒に仕事をされていた山口光男さんから頂きました追憶文と、本倫理委員会のメンバーを代表して(第3代委員長)今井相談役、(第4代委員長)日下部相談役、第5代富澤委員長からの追悼およびご本人の活動書を謹んで掲載させていただきます。(代表文：佐々木幹事長)

【花田さんを偲んで(山口光男)】

今年の年賀状は今までと違って、印刷で「～あり、年賀状終いに致したく思います」とあった。



ドーコン時代の仕事仲間と

昨年までの年賀状では自筆で①コロナに気をつける②健康に留意してお過ごしくださいなどと一筆書かれていたが、体調でも崩されて弱気になっているのかな？と思っていた矢先、1月7日に緊急入院されたとの話しが安江さんから知らされた。そして入院から1週間で亡くなったとの知らせが来ました。

あまりにも突然の訃報に愕然とした次第です。お通夜の時、奥様からこの1年間の病との闘い、会社通いも常勤を通されたとのこと。昔からお酒が好きで、ごく一部の日本酒愛好家との飲み会は必ず出席された。奥様との時間を大切にされ、まことに花田さんらしい病との向き合いであり、77年(実は76歳と10か月)の人生だと感じた次第です。ここに謹んで哀悼の意を表しますとともに、故人の素晴らしいドーコン人生を偲びたいと思います。

花田さんが入社されたのが昭和42年、私が入社したのが昭和48年。当時の橋梁設計は一部大型コンピューター、報告書は手書き、図面はドラフターを使って手書きの時代。橋梁下部工などは、花田さんが中心となってプログラム開発された橋台、橋脚の設計ソフトを使って詳細設計を行っていた。まさに橋梁技術の第一線で活躍されていた。私は平成20年にドーコンを退社。入社以来35年に渡り花田さんの後を技術という電車の2両目に乗って走ってきた感があります。その後も進む線路は違いますが、お互い70歳を超えて技術の第一線で働いていたことを感謝する次第であります。

この35年の歩みの中で、思いの歴史を紐解きますと、まず第一に挙げるのが、PC構造の専門家グループの立ち上げがあります。私が入社した48年春の人事で新たにPC橋梁の設計グループを作り、そのグループ長としてPC連結桁(社台橋、八雲大橋)、PC中空床版橋(新琴似こ線橋など)、PCラーメン橋(松城橋、泉大橋)を設計した。まことに研究熱心な方で、設計する場合には必ずその研究論文、文献などを読んでいた。特に印象にあるのは、ドイツの有名なレオンハルト先生の書かれた大学の教科書を取り寄せ、PCラーメン橋の設計の参考にして

いた。「ドイツ語が分からなくても図、絵を見ているのが楽しい……」昭和の終わり頃、PC斜張橋の計画が盛んになり、滝野公園橋の計画、ミュンヘン大橋、十勝大橋などの設計担当者として携わった。

ミュンヘン大橋は札幌市、豊平川に架設された2径間連続PC斜張橋である。橋の支間割は1:0.6の非対称支間、かつ広幅員で斜角を有していることから、札幌市では技術検討委員会(委員長:当時藤田嘉夫北大教授)を設置し、様々な角度からこれら特殊問題に対する検討を行った。この橋は平成3年度に完成しこの年度の札幌市都市景観賞をいただいた。こののち担当したのが十勝大橋である。橋長501m、中央径間251mを有する国大最大級のPC斜張橋である。総幅32.8mの1面吊り構造で



花田真吉氏が設計に携わったミュンヘン大橋



名誉表彰の一端

あること、独立1本柱であることなど、特殊性を持った大規模なPC斜張橋であることから帯広開発建設部では技術検討委員会(委員長:当時藤田嘉夫

北大教授)が設置された。この委員会では花田さんが主導して、①主桁斜材定着部の局部応力と耐力の確認のための模型実験②動的解析により主塔の塑性変形性能照査などを審議し、十勝大橋設計基準を作成した。この橋は平成 8 年に完成し、その年の土木学会田中賞を受賞した。田中賞受賞に関しては、「橋梁技術者としては最高の作品賞であり、津軽海峡を初めて超えて受賞した」「PC 橋梁設計担当者として最大の幸運」と後に花田さんの私記に書かれている。この件につきましては、社長より表彰状と金一封をいただきました。この 2 つの橋梁の技術検討委員会の経験から、PC 技術者の教育・育成に力を注ぎ、土木学会、プレストレストコンクリート・シンポジウムへの論文投稿。コンクリート工学を含めた各種専門誌への論文投稿。国際会議での発表など、17 編に及ぶ。また若手の技術士取得に向けても相当の影響を与えた。花田さんは先端技術を積極的に吸収するばかりでなく、部下を育成することにも精力的に取り組み、土木学会、コンクリート工学協会などの全国大会での論文発表、専門誌への投稿などを推進しました。十勝大橋では 17 編もの技術論文を発表しています。

一方、社会活動としては、北海道土木技術会コンクリート研究委員会の事務局長、副委員長などを長く勤められ、北海道の土木技術の発展に寄与され、ここ 10 年間は技術士会の倫理委員会を立ち上げ、若手技術者の育成にも取り組んでおられました。

また、花田さんと言えば米屋の息子で、日本酒が大好きな方でした。委員会の後の懇親会で 4～5 人で一升瓶 5 本を開けたこともありました。私などはどう家に帰ったのかは不明でしたが花田さんはしっかり家にたどり着いたようです。

私たちの若い時代の趣味と言えば、ゴルフです。橋梁部が中心となってスズラン CC の会員となり、イーグル会と命名して年 20 回ぐらいラウンドしていました。残り 50 ヤードくらいからグリーンに乗せるのが上手く、そこからダフったり、トップしたり、同伴の上司から笑われる私とは大違いのいいゴ

ルフをしていました。

花田さんはドーコン 43 年、私は 35 年。橋梁部次長、技師長、技術情報部部長、上席技師長、技術審査室と私自身花田さんの後をついていったドーコン人生ですが、70 歳を過ぎても技術者として歩んでこられた姿を追いながら、私自身も技術の伝承をしています。

ドーコン社内誌で書かれた、花田さんの好きな言葉「君よ今、北の大地の風となれ」を心に刻み、筆をおきます。安らかなご冥福をお祈りいたします。

【元倫理研究会代表

花田眞吉氏を偲んで(今井淳一)】

倫理委員会での花田さんとの繋がりは、2009 年度の「倫理研究会・準備会」での参集から始まっています。「倫理研究会」発足の前年に第 1 回準備会(2008 年 6 月 25 日水曜日)を(株)ドーコン北 4 条ビル 4 階 会議室で開催し、北海道支部として技術者倫理に関する組織として倫理研究会を立ち上げることを合意しました。倫理研究会は【社団法人日本技術士会北海道支部・北海道技術士センター等の会員で、技術者倫理に関する諸問題を研究し、北海道で活動している技術者に対して、技術者倫理の啓蒙・普及を図ることを目的としている。それとともに、研究会を通して部会員の広範な技術習得を期待するものである。】と謳っています。そして、規約の第 2 条に当研究会の設立主旨も同様に「本研究会は、技術者倫理に関する諸問題を研究し、その成果を基に北海道で活動している技術者に対して、技術者倫理の啓蒙・普及を図ることを目的とする」としてスタートを切りました。



研究会での討議風景(ドーコン新札幌ビル 3 階会議室
(向かって左から飯野さん、花田さん、今井))

その初代代表に花田さんが就任し、自分が幹事長、そして実質的に活動のための事務局として会計幹事を寒地土木研究所の橋本聖さんをお願いしました。そこから、倫理委員会に係わる花田さんと私の繋がりがスタートしました。しかし、ドーコンでの花田さんと私の繋がりは、実は軟弱地盤対策工、ドーコン社員親睦会幹事会、私がドーコン人事部長、そして人事部を整理し、私が技術情報部へ異動するための後ろ盾を含め 28 年に及ぶのですが、ここでは割愛させていただきます。



【花田さんの講演風景 2010年3月5日
第1回技術者倫理フォーラム：きょうさいサロン】



第1回技術者倫理フォーラム(2010年3月5日)
倫理研究会 佐崎幹事、花田代表、田岡講師

花田さんとは、倫理研究会活動において、最初の数年間は、その都度の「研究テーマの設定と研究会の方向性」を始め、毎年開催してきた「技術者倫理フォーラム」の基調講演をどの方(先生に)をお願いするのか、フォーラムでの研究会からの活動報告をどの研究テーマで発表するか、はたまた、北海道支部との連絡係を私が勤めていた関係から支部事務局

長である当時ドーコンの故大谷さんや森前北海道本部長との事前調整、そして各研究会の委員長会議にも同席し、倫理研究会活動報告の代行などを一緒に行なうなどして研究会運営に携わってきました。

そのため、研究会の幹事会や研究会の開催時以外にも事あるごとにつけ、何度も花田さんと個人的に打合せ(飲み会付)し、色々なことを話し合い、花田さんの意向を理解してきたつもりでいます。そんな付き合いは、花田さんが倫理研究会代表を退任するまで続いていました。このような対応は、花田さんや私自身も当時の会社での立場から比較的時間の都合が付いたことから出来たと今思えば、当時の会社に感謝する次第です。

その後、花田さんから委員長が佐崎さんに、幹事長が私から前倫理委員長の日下部さんに交代、また、その後幹事長が佐々木さんになり、委員会内の連絡調整や北海道本部対応が全て佐々木さんにお任せできるようになりました。



【第1回技術者倫理フォーラム後の
交流会：きょうさいサロン】

あと、「技術士全国大会」へ私が直接参加したのは、私が倫理委員会委員長だった富山市での大会と翌年の横浜市での開催の2回でしたが、花田さんは継続して毎年参加されており、統括本部倫理委員会のみならず全国各地方本部や県支部の倫理委員会関係者と交流されており、今でも「北海道本部の技術者倫理は花田さん」の名で通っていると思います。

最後になりますが、花田さんとの交流は、思い起こせばこれまで約47年間にも及ぶものになってい

ました。しかし、今回花田さんとの交流を、いざ書こうとすると中々具体的なエピソードが出てきません。これまで多くの場面で、花田さんとコンビで活動してきて多くのことで支えられて来ました。本当にありがとうございました。

【花田さんを偲んで(日下部祐基)】

私が花田さんと初めてお会いしたのは、本倫理委員会の前で、確か北海道土木技術会のコンクリート研究委員会にあった橋梁下部工に関する技術小委員会だったと思います。その時に委員長の花田さんに苦言を言った記憶があります。それは、委員会終了後に一度も懇親会を開かないことです。その苦言が効いたのか、花田さんは本倫理委員会では必ず懇親会(飲み会)を開いてくれました。しかし残念なことに、私は途中禁酒してしまったので飲み会の参加を減らしてしまいました。最近飲酒を再開していたので、また一緒に飲もうと思っていた矢先の訃報でした。残念です。謹んで哀悼の意を表します。

【花田さんを偲んで(富澤幸一)】

真に「巨星遂つ」です。小職は幾つか参加している権威的な学協会委員会に時にやや嫌悪することがありますが、本倫理委員会には準備会の段階から積極的に参画させて頂いています。理由は明瞭で、一定の信義則は重んじますが、年齢や立場に関係なく自由闊達に各人が倫理的議論をするのが特徴だからです。そのため、現在30名の委員の議論が発散し賛否が入り混じることもあります。最後は花田相談役の一言で全てがまとまります。本委員会には若手技術士からレジェンドまで多数おりますが、真摯な意見の花田さんを悪く言う人は皆無です。これまでに、自分もご指導を受け何度助けられました。

交流会では、夏でも熱燗の日本酒を美味しくそうに飲み、腕組みをして皆の意見を嬉しそうに聞いているお姿を思い出すと感涙と惜別の念が交差します。

今年度から花田相談役の意志を継ぎ、技術倫理を過去・現在・未来テーマのグループ別活動を開始しました。花田相談役に恥じない、カオスな今だからこそ必須な技術者倫理研究を肝に命じる次第です。



第10回技術者倫理フォーラム(2019年6月28日)懇親会での記念写真
最前列右から3人目花田氏

以下の文章は「第 1 期 倫理研究会 活動報告書(2008 年(H20)6 月～ 2013 年(H25)3 月)」に掲載された花田さんの「はじめに」と「感想文」です。謹んで掲載いたします。

はじめに

北海道の技術士仲間に倫理の種をまいたのは、当時、独立行政法人北海道開発土木研究所理事であった能登繁幸氏である。彼は 2002 年 1 月「土木技術者の倫理」を刊行した。当書は「科学技術者の倫理—その考え方と事例」(日本技術士会訳編)をもとに、土木技術者を主たる対象としてなるべく平易に書き直したものである(彼はこれを編作と呼んでいる)。

この頃、バブル崩壊とともに東海村原子力臨界事故、新幹線コンクリート塊剥落事故、雪印食中毒事件など組織が起こした不祥事が続出し、技術を担う技術者の為の技術者倫理の必要性が謳われた。1999 年に土木学会倫理規定が制定され、日本技術士会技術士倫理要綱の改訂が行われ「人々の安全と福祉、健康に対する責任を最優先する」理念が打ち出された。また技術士法が 2000 年に改訂され「公益確保」と「資質向上」の責務が追加され、更に JABEE によるプログラム認定が 2001 年から開始され、技術者倫理が広く普及する下地が出来上がった頃であった。

その後時を経て、2008 年 6 月にドーコン北 4 条ビル 4 階会議室で、現在の会の原型である「倫理問題研究会・準備会」が 13 人の参加を得て発足した。その後、名称を「倫理研究会」と改め支部総会で承認を得て 2009 年度 5 月に寒地土木研究所会議室にて第 1 回定例会を開催した。会員は 21 名に膨れていた。会の目的を「技術者倫理の研究・啓蒙・普及」としたがほぼ全員が素人であり、当面は会員の倫理的思想の醸成(技術者倫理に慣れ親しむこと・習得すること)を目標とした。そのためにワークショップ型による事例研究や会員による倫理所感を述べて貰ったり、倫理的視点から時事問題を講演して貰ったりしての全員参加型の勉強会的活動を続けて来た。その後、能登氏編作の「土木技術者の倫理」をテキストに使用して系統立てた学習を行った。幹事と会員がペアを組んで 1 章毎を説明・解説し、それについて全員で議論する型式で行ったので、技術者倫理への理解が深まったのではないかと少し“ホッ”としているところである。

また、道内で活躍している技術者に対して技術者倫理の啓蒙・普及を図ることを目的に「技術者倫理フォーラム～公衆から信頼される技術者になるう～」を 3 回開催し、また道東技術士会総会で講演を行う等、多くの方に話を聞いて頂き多少の効果があったのではないかと考えている。

最後に、素人集団の活動であるが会員一丸となって今後も継続して行きますので、皆様からのご指導ご鞭撻をお願いするとともに、途中転勤等で退会された会員を含めて全ての会員と能登顧問から多くのご協力を頂きながら準備会、第 1 期研究会の 5 年間を無事に活動できたことを心から感謝申し上げます。

2013 年 3 月

倫理問題研究会・準備会

第 1 期 倫理研究会

代表 花田真吉

コンプライアンスと技術者倫理

倫理研究会 代表 花田眞吉

コンプライアンスを直訳すると「法令遵守」となり法令だけを守ればよいのかと議論になった事がありました。現在は法令だけに留まらず、社内規程やマニュアル、企業倫理等の社会規範や社会常識に準拠した『ルール』に従って様々な事業活動が行われる事と理解される様になり、これを大事にする企業が国民の信頼を得て企業の継続的發展を図る事が出来ると理解される様になってきている。

倫理研究会での事例研究では、事例に含まれる倫理的課題を明確にし、課題に含まれるリスクや障壁を洗い出し、そして関連する要因や事実関係を明らかにし、取り得る行動案を自由気ままに議論してきた。このリスクや障壁の洗い出しと行動案の提案のプロセスは、社内で不具合や事件が生じた時に事実関係や課題を明らかにし、再発防止を含めた対策を考えるプロセスと同じである。

各企業においてコンプライアンスに基づく『ルール』を社長以下全職員に知らしめ定着させる努力を日々重ねているが、不具合や不祥事が発生している。科学技術の発展においてミスを経験しない発展はないのと同じで、ミスがあるのを前提として、「予防保全・回避対策」と「事後処理対策」を立てる事になる。この不具合や不祥事に直面するのは担当者でありその管理職である課長、部長である。この担当者、課長、部長は日常業務において種々の「ヒヤリ・ハット」に直面しており、不具合や不祥事を日常の中で防止できる最前線の職員である。

研究会会員の全員が「ヒヤリ・ハット」を経験する又は報告を受ける立場の人であり、定例会での日頃の活動は正にリスク危機マネジメントを学ぶ場でもある。そして、その切り口が技術者倫理と言うだけの事である。多くの技術者は倫理の言葉を聞くだけで引いてしまうが、自由気ままな議論を通じて自然に危機対応能力を身に付け事が出来ます。定例会終了後の懇親会での雑談も楽しいです。

この第1期活動報告書を見た北海道本部の会員の皆さん！！

倫理研究会のおおよその活動が分かって頂いたと思います。また定例会は自由な雰囲気です。楽しい時間をすごせますよ……！！

* 倫理委員会委員一同、謹んで花田さんのご冥福を祈ると同時に、鋭意研究活動を継続していく考えです。今後とも、皆様のご指導のほどよろしくお願い致します。